



今月の主な目次

○サイレージ用トウモロコシ スノーデント・ニューデント系栽培のポイントと地域適性品種紹介
○パイパスたんぱく質飼料について

○酪農家が行う乳牛の健康管理と対応策
① 酪農家が行う健康診断
○東北事業部からご挨拶

謹賀新年

平成14年の新春を迎え、皆様のご健勝と、益々のご繁栄を心から祈念申し上げ、併せて本年も相変わリませぬご愛顧と、お引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

昨年は、アメリカにおける同時多発テロの発生、加えて、たんそ病被害の拡大、それを受けたアフガニスタンタリバン勢力への武力侵攻等、世界を震撼させる出来事が続きました。

一方、我が国においても、経済面でのデフレ基調が深まり、不良債権処理の遅れ、失業率の高まり等が問題視され、秋に入っては、BSE(牛海綿状脳症)の発生とその対策、検査体制の確立など、国民の皆様にも大きな不安をもたらしました。全頭検査が軌道に乗り、かつ、それが機能しつつあることが確認され、今後に向かっての不安は解消されていくと思われます。いずれにしても、酪農・畜産農家の皆様を受けた痛手ははかり知れぬものがあり、ここに、あらためてお見舞いを申し上げます。

農業・地球の元気を取り戻そう

BSE問題は、農業の過度なグローバリゼーションの弊害を受け、かつ、農業の過度な経済効率の追及が、その誘因として横たわっていると指摘されています。農業の持つ、自然循環と地域性のみなおしが必要です。

しかし、日本の食料は、世界との係わりの中で、その量と質をまっとうしているのが現状であり、大きな恩恵をこうむっているとも言えます。従って、世界貿易機関(WTO)の次期多角的貿易交渉がこの1月からスタートし、農業に関する包括交渉の論議も始まり、私たちもその行方を注視していきたいと思えます。

また、地球温暖化防止のスタート台とも言える『京都議定書』の2002年発効にむけ、アメリカの足並みの乱れはありますが、大きな前進にむけた歩みが踏み出されています。温室効果ガスの削減に向け、工業サイドはもとより、農業・畜産サイドにおいてもより積極的な対応が求められてきます。

当社の理念とする『健土健民』は、このような将来をみとおした場面においても、大きな光を投げかけていると受け止め、より良き種子の開発、採種、流通、より良き飼料の研究、製造、供給、より良き環境の保全、設計、施工にむけ、役職員一同、更なる努力を傾注する所存です。今後とも、よろしくご支援・ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

新年を迎えるに当たり、皆様の一層のご発展を重ねて祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

平成14年 元旦

雪印種苗株式会社

取締役社長 菊地 庸